

市税収入と市債残高・社会保障関係費・医療保険の 税負担・行財政改革の **ポイント!**

●市税収入と市債残高の状況

市税収入については、合併時の平成17年度から平成20年度までは増収傾向にありましたが、平成20年度のピーク時と比較すると約3割ほど減収となっています。

市の借金となる市債残高については減少傾向にあり、合併時の平成17年度と比較して、約3割ほど減少しています。



●社会保障関係経費(扶助費)の状況

生活保護や児童、高齢者並びに障がい者福祉などの社会保障制度に係る経費である扶助費は年々増加しており、合併時の平成17年度と比較して約2.1倍に拡大しています。

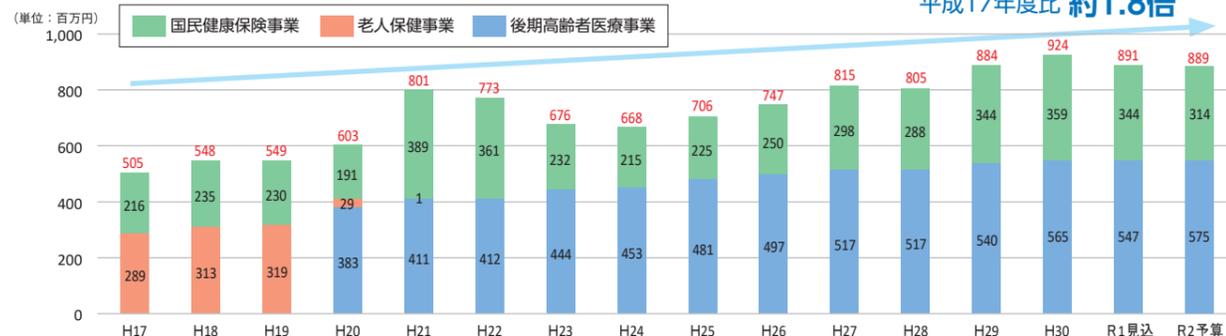
平成17年度比 約2.1倍



●医療保険の税負担(一般会計繰出金)

超高齢社会の進展などにより医療保険に対する税負担が年々増加しており、合併時の平成17年度と比較して約1.8倍に拡大しています。

平成17年度比 約1.8倍



●令和2年度の行財政改革のポイント

市では、「第3次行財政改革大綱(計画期間:令和2~7年度)」に基づき、持続可能な行財政運営を目指し、取り組みを行います。

- 協働や民間活力の活用等による事務効率の向上や事務事業の見直しによる歳出の削減を図ります。
- 新たな自治体間連携として、はしご自動車の共同運用を図ることにより、安定的な財政基盤を確立します。
- 国民健康保険事業や公共下水道事業などの特別会計・企業会計において、独立採算制の原則のもと収入の確保と支出の削減を図るなど、一般会計からの繰入に依存しないような経営の健全化に努めます。

※H17からH30までは決算数値、R1は決算見込み数値、R2は当初予算額

年収約400万円の
家計に例えると…
(市予算の1/5000)

5万人の台所事情

亀山家(市)の家計簿

令和2年度の一般会計予算を5,000分の1にして、家計簿に例えてみました。

市にはさまざまな種類の収入と支出があり、一般の家計とは少し違った内容になっていますが、亀山家(市)の年間家計簿をつくってみると…

収入		令和元年度からの増減	支出		令和元年度からの増減
現金収入合計	371万円	(+10万円)	生活費用合計	326万円	(+30万円)
給料(基本給) ▶市税、分担金および負担金	210万円	(-7万円)	食費 ▶人件費	79万円	(+15万円)
給料(諸手当) ▶地方交付税、譲与税・交付金等	62万円	(+1万円)	医療費 ▶扶助費	64万円	(-1万円)
パート収入 ▶諸収入、使用料・手数料	11万円	(-2万円)	光熱水費などの雑費 ▶物件費、補助費等	117万円	(+5万円)
親からの援助 ▶国庫支出金、県支出金	88万円	(+18万円)	車などの修理代 ▶維持修繕費	7万円	(-5万円)
ローン(借入金) ▶市債	36万円	(+19万円)	教育費	59万円	(+16万円)
貯金の取り崩し ▶繰入金	27万円	(+4万円)	子どもへの仕送り ▶繰出金	39万円	(+1万円)
繰越金 ▶繰越金	2万円	(0円)	ローンの返済 ▶公債費	38万円	(0円)
			家や庭の建築・改修 ▶普通建設事業費、災害復旧費	31万円	(+5万円)
			貸付など ▶貸付金、投資および出資金	0万円	(-3万円)
			貯金など ▶積立金、予備費	2万円	(0円)
収入合計	436万円	(+33万円)	支出合計	436万円	(+33万円)

令和2年度の家計は…

収入は、昨年度に比べて基本給が減る見込みです。また、家や庭の建築・改修費用などが増える見込みのため、親からの援助に頼り、ローンの借入れを増やします。

支出では、車などの修理代や貸付などが減ったものの、食費や教育費が大きく増える見込みであるため、出費を極力抑えることとされていますが、老朽化等による家や庭の建築・改修の費用が増えていく見込みです。

今後も基本給の減少が見込まれており、節電や節水に努めるのはもちろんのこと、その他の出費についても無駄がないか徹底的に見直して節約します。また、貯金の取り崩しは最小限に止め、家計の安定に向けてより一層努力していきます。

家計簿をしっかりチェックして、収入に見合った支出を心がけたいね。

